

本の紹介

『トラウマの国のアリス 解離性障害と性暴力被害』

著者：八幡 真弓

この本の著者の八幡真弓さんは、2月14日（土）にエル・ソーラ仙台のストップ！DV・性暴力市民講座で「当事者の視点で考える『トラウマインフォームド・ケア』』というテーマで講演をされました。ハーティだより81号に、シドニーで開催された「世界女性会議」に参加されたレポートを寄稿してくださいました。

真弓さんは、DV・性暴力などの女性支援の仕事をしてきており、かつ性暴力の被害当事者であることを公表して当事者としての視点から、トラウマに配慮した視点が社会には必要だと活動をしています。

トラウマとはどんな世界なのか——それは感覚がゆがみ、起きることがいちいちあべこべ。時間の進みも上下もわからなくなる、まるで『不思議の国のアリス』のような世界。しかし、そのような「冒険」をしながらもトラウマからの回復がはかられていく。

その日々を、ジュディス・ハーマンのトラウマからの回復の三段階「安全」「想起と服喪追悼」「再結合」に沿って克明に綴る、トラウマに焦点を当てた、今までにない解離性障害・性暴力被害当事者の記録。

（本の紹介チラシから）

なんだか難しそうに見えますが、実は一気に読ませてしまう力を持っている本です。上下関係のある加害者から反復的継続的な性暴力被害を受けたこと、そこから離れてもトラウマを抱えて生きてきたこと、それに気づき、抜け出そうとしてきた15年に及ぶ道のりが書かれています。

「小児期逆境体験の多い幼少期で、早い段階から解離性障害の症状が出ていた。」と振り返り、「脳内にイマジナリー加害者が常駐している。」という長く苦しい状況からどう脱出していったか。「症状に振り回される自分、否認する自分・・・」とあります。自分の中に「私」、（私）、”私“《私》がいて「どの私も勇敢なアリスです」とあります。さまざまなキーパーソンとなる人たちとの出会い、真弓さんならではの語り口で時折見え隠れする生活を楽しむひとこまを感じながら読み進めました。

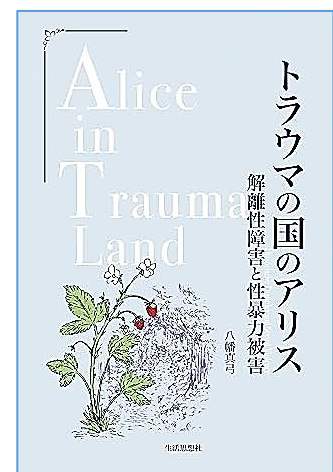
回復への道のりは長くもありましたが、真弓さんが回復を信じることができたのは、「子ども時代から女性支援活動で辛い出来事の中から再起する人をたくさん見てきたから。」と言います。

トラウマを抱えて苦しんでいる当事者の方、相談支援に関わる方たちにぜひ読んでいただきたい一冊です。

真弓さんの活動について詳しくは真弓さんが代表をされている

Praise the brave（プレイス・サ・ブレイブ：勇敢さを讃えると

いう意味）のホームページを



出版社：生活思想社 2,530円 税込